

岳連 ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

(一社)静岡県山岳・スポーツ
クライミング連盟

〒422-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL (FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
令和7年9月1日発行
第52号

少年女子国スポ出場決まる 第46回東海ブロック大会

第46回国民スポーツ大会東海ブロック大会スポーツクライミング競技は、連日の真夏の暑さが続く中、7月19日、20日の日程で富士市を会場に東海4県で。成年女子1枠、少年男子・少年女子各2枠をめぐって熱戦が繰り広げられた。

初日のリードは、ブルーキャニオンで行われ、女子は、少年・成年共通のメイン壁左からルーフ下をトラバース、直上し上部にしたがって厳しくなるルート(13b)で、最初の少年女子は、静岡の堀内さんが終了点2手前まで迫り、個人順位1位、狩野さんも個人順位3位



成年女子リード



少年男子ボルダー



成年女子ボルダー

となり、チーム順位1位スタートとなった。
成年女子は、愛知県が、日本代表経験のある2名をそろえ、唯一の完登を含む1位・2位となり、その次に22の中里さんが3位タイ、この順位に

4名が入ったため鈴木さんの22は7位となり、チーム順位は3位スタートとなった。

少年男子は、メイン壁の右側を登るレストの難しいルートで、三重の2名が1位、2位を獲得、静岡の宮川君が3位、船越くんが6位で、2位のチーム順位となった。

翌20日のボルダーは、サニロック富士に会場を移して朝から行われ、最初の少年女子は、堀内さんと狩野さんが2完登4Zの個人順位2位と3位となり、総合で1位を獲得し全国大会への出場を決めた。

成年女子は、中里さんが個人順位2位、鈴木さんも5位と健闘し順位を上げ総合成績で2位となった。



少年女子リード



少年女子ボルダー

少年男子は、全完登を決めた三重県が強く、静岡は両名とも3完登4Zと健闘したが、愛知と接戦となり、チーム順位点とは同点、しかし惜しくも個人順位ポイントで一歩及ばず総合で3位となった。ボルダーの課題は、やはりコーディネーション系の課題が多く、少ないトライで確実に課題を落とす力が問われた。

なお、大会の競技・運営については、審判長・運営主任審判、JMSCAのTD・リザルトの方々大変お世話になりました。厳しい条件の中、競技施設を提供していただいたサニロックさん、県内・東海四県を含め多くの方々に様々な場面で協力していただき、無事大会を終了できたことに感謝申し上げます。

静岡県選手団

少年男子	監督	伊藤裕貴	浜松市
	選手	船越琉生	静岡市
成年女子	監督	難波利行	富士宮市
	選手	中里溪夏	沼津市
少年女子	選手	鈴木結菜	静岡市
	監督	岩田幸裕	浜松市
	選手	狩野 風	浜松市
	選手	堀内優里	静岡市

順位は次の通り。
【成年女子】○1位愛知県、2位静岡県(中里溪夏、鈴木結菜)、3位三重県、4位岐阜県

【少年男子】○1位三重県、○2位愛知県、3位静岡県(船越琉生、宮川幸大)、4位岐阜県

【少年女子】○1位静岡県(狩野風、堀内優里)、○2位三重県、3位愛知県、4位岐阜県

(○は全国大会代表)
(諸戸明)

山岳レスキュー講習会 のりスタ、ファーストエイド、ロープワークを学ぶ

令和7年度山岳レスキュー講習会が、7月12日静岡県男女共同参画センター「あざれあ」において開催された。滝田事務局長の挨拶と講師紹介の後、講習が始まった。



「山のリスクマネジメント」事故発生から救助まで」小林講師・自身の転倒事故を教訓に、山岳遭難の発生件数や遭難状況の傾向を数字で分析。登山は他のスポーツと異なり、自然を相手にする特性とリスクがある。登山計画書は必要であり、その効果は遭難したときにこそ威力を発揮する。必ず提出すること。自分

の体力と登山中の消費エネルギーを知る。山の体力は山でつける。アクションが発生し行動不能に陥ったとき、どう対処するか。仲間から遭難の連絡が山岳会に入ったとき、留守番の対応などについて普段から考えておく必要がある。気象遭難を起こさないため、雲形の写真を参考に天気が悪化する危険な雲を学んだ。結論として、危険が最も危険なのは、その危険を察知できないところにある。

「ファーストエイド」仲間の命を守る」大友講師・今回初めて講師を務めて頂く。ファーストエイドの目的、事故から救助要請まで。外傷の応急処置（捻挫・切り傷・骨折・脱臼など）。登山中の病気（高山病・低体温症・熱中症）や落雷・有害虫への対処を学んだ。三角巾を使った処置や固定方・止血方・寝かせ方などの実技を行った。各人が手当方法を身につける

ることにより、的確な対応が可能になる。いつ自分の身に起こるか分からないので、できることから身につけるようにしたい。

昼食休憩を挟んで午後からは、「山岳事故における法的責任」について、高野講師から昨年の行った講習会の報告を受けた。登山のリーダーは安全に配慮する義務がある。一般的な自主登山では、自己責任の原則に則る。ただし、ロープを使用する場合はブレイヤーに注意義務が発生する事例がある。それ以外の登山（ツアー登山、講習会、学校登山）は、引率登山として安全の確保義務が生ずる。

続いて「レスキュー講習」では、ロープやカラビナなどの登山用具の解説（浅原講師）の後、初級コース18名（3班）、中級コース6名（1班）の4班に分かれ、各講師（石原・高野・浅原・工藤）について実技に入

下・悪場の通過）、搬送、ツェルト活用、「中級」結束方法、支点構築、セカンドレスキュー、リーダーレスキュー、ライジングシステム、搬送を実習した。

講習会で年一回練習しただけではなかなか覚え

富士男女アベック優勝！沼津東（男子）準優勝、藤枝東（女子）3位入賞

下・悪場の通過）、搬送、ツェルト活用、「中級」結束方法、支点構築、セカンドレスキュー、リーダーレスキュー、ライジングシステム、搬送を実習した。

講習会で年一回練習しただけではなかなか覚え

東海総体

第72回東海高等学校総合体育大会登山大会が令和7年6月20日（金）から22日（日）まで三重県の鈴鹿山系で開催された。

例年は、梅雨前線が気になる季節だが、この週の前半から日本列島は太平洋高気圧に覆われ厳しい暑さとなった。雨の心配は無いが、熱中症が懸念される中、大会当日を迎えた。



大会2日目は、朝明茶屋キャンプ場から、メインザックによるチーム行動。溪谷沿いに根の平峠の稜線に出て国見岳御在所山・武平峠と奇岩が

多い、変化に富んだコースであった。CP3の武平峠駐車場で監督隊と合流し、パーティ行動でロープウェイ湯の山温泉駅まで進んだ。稜線部では霧が出て展望が十分ではなかったようだが、強い日差しは避けられ、懸念していたヒルの被害も無く、速いチームはスタートからCP3まで3時間強で到着した。

宿舎のグリーンホテルでは、松本功先生の「鈴鹿山脈物見遊山（考える登山のすすめ）」と題した講演は、鈴鹿山脈の成り立ちや生物の多様性、最近の動物の変化、自然を守るとはなど多岐にわたるテーマであった。松本先生は知識と情報量が豊富で、選手は興味津々に聴いていた。講演では、選手たちに「山行の記録を残して部報として残そう。研究し知識をもって次の山を楽しもう」というメッセージが送られた。夜の交流会は、各チームによる寸劇や出し物に盛り上がり、競技の合間の楽しい時間を過ごすことができた。

（鈴木重幸）

バルトロ氷河トレッキング報告

国際委員長 出利葉義次

【期間】

2025年5月30日～6月22日

【参加者】

出利葉義次、望月喜久治、小林久二彦、小野田和世、鈴木祥博(以上、静岡)、落合正治(神奈川)、山本実(岐阜)、計七名

【はじめに】

2024年7月27日、平出和也と中島健郎がK2西壁登攀中に滑落、死亡した。遺体は収容することが出来ず、いまま西壁下部の懸垂氷河に遺されている。2024年2月、国際委員会では2人を招き、前年初登攀に成



K2BC



ギルキーメモリアル

功したテリチミール北壁の報告会を開催した。K2滑落遭難はその半年後の出来事であった。二人と親しく交流した直後の遭難死でもあり、国際委員会ではバルトロ氷河追悼トレッキングを計画、K2BC近くのギルキーメモリアルに銘板を設置することにした。

【行動記録】

2025年5月30日成田空港から出国、イスラマバードから空路スカルドウに移動、6月2日バルトロ氷河トレッキングの出発地アスコーレに到着。荒涼とした山々に囲まれた集落はそこだけ緑

が眩しく、遡ること2006年東海大学K2登山隊として訪れたときの景色とは違っていた。

2006年当時、アスコーレは単なる草地のキャンプ地だったが、いまでは水道や電源設備、立派なトイレがあるキャンプ場として区画整備され、新しいロッジまで建っていた。年配者が多い私たちはジョラ、パイユ、クルブツエ、ウルドカス、ゴレII、コンコルディア、途中2日の休養日を入れて9日間かけてK2BCを目指した。最近はおーターの人数確保が難しいらしく、7～8年前から馬やロバでの運搬が主流だと聞いた。



パイユから先は連日快晴、バルトロ氷河を代表する山々、グレートトラ



コンコルディアにて

き、ジョラの手前2020年新たに支流に架けられた大きな橋を渡る。かつてジョラの高大巻き、渡しと呼ばれていた難所だが、2006年当時その難所もなく支流上流の小さな橋を渡るために拓かれていた迂回の水平道も廃道になっていた。驚くことに軍用道路はパイユ近くまで拓かれていた。

パイユから先は連日快晴、バルトロ氷河を代表する山々、グレートトラゴ、マツシャールム、ムスターグタワー、正面にガッシャーブルムIV峰、ブロードピークを見て、懐かしさと共にようやく来たという安堵感があつた。

かつて意気揚々と歩いたバルトロ氷河は、歳を重ねた私にとって過酷な道のりとなった。途中で左膝を痛めた私は、スタッフの助けを借りながら懸命に歩き続けた。コンコルディアに近づくにつれて山容が見え始めた。平出和也と中島健郎があの場所に眠っているかと思うと胸が苦しくなった。

6月11日、K2BCに到着。図らずも我々が今シーズン最初にBC入りした隊となった。どこにも登山隊の姿はなく、賑やかなBCを予想していただけに拍子抜けした。

翌12日、ギルキーメモリアルと呼ばれる墓標、大ケルンの前で追悼セレモニーを行った。持参した平出和也の銘板と中島健郎の遺影を掲げ、彼らがBCで好んで聞いているという曲、ケルティック・ウーマンのユーレイズミーアップを流し、一人ひとり合掌した。私は「平出君、中島君迎えに来たぞ、一緒に日本に帰ろう」と大きな声で呼びかけた。

その後、その先にK2西壁があるサヴォイア氷河に入り、その場所に行けない悔しさ、万感の想いでその場の小石を拾い氷河の水をすくってBCに引き返した。

帰途、コンコルディアから見たK2は西側が夕陽に染まり、これまでも増して神々しい姿だった。この日を最後にK2は姿を隠した。まるで彼らが別れを告げているように思えた。帰路は往路を引き返し6月18日アスコーレ帰着、6月20日夜遅くイスラマバード空港から出国、6月22日帰国した。

帰国後、平出和也の実家(長野県富士見町)を訪ね、持ち帰った小石と水をお届けした。



追悼セレモニーを終えて

静岡(女子)第2位 藤枝東男子第6位 全国高校総体登山大会(広島大会)

「輝け 君の青春 刻め 努力の軌跡」の大会スローガンのもと、令和7年度全国高等学校総合体育大会第69回全国高等学校登山大会が8月5日～9日にかけて広島県(安芸太田町)で行われた。

本県出場校の結果は、初出場の静岡(女子団体)が2位に入賞し、藤枝東(男子団体)は第6位に入賞した。

山域は西中国山地最高峰(広島島根両県の最高峰)である恐羅漢山(1346m)を含むコースであった。

大会2日目は恐羅漢山コース、3日目は十方山



(1318m)コース、4日目は深入山(1152m)・三段峡(黒淵)コースであった。天候等の諸事情で、コースの短縮、審査の縮小等があった。

大会1日目は開会式、登山隊編成を終え、昼食後、コース隊編成ののち天気図と課題テストが行われた。その後、幕営地である深入山グリーンシャワーへ移動した。幕営地では設営審査及び炊事審査が行われた。2日目は予定通り恐羅漢山コースでの登山行動であった。好天に恵まれたため、熱中症が心配されたが、大幅な気温上昇はなかった。この日は夜間から荒天となるとの予報から、選手と監督は幕営地を撤収し安芸太田町戸河内ふれあいセンターに移動し宿泊をした。翌朝、幕営地の日除け用のテントは強風に飛ばされており、大会運営の適切な判断により事なきを得た。3日目はメインザックによる十方

男子団体	1位	広島学院(広島)	100.0
	2位	松山南(愛媛)	99.5
	3位	福岡(福岡)	99.4
	4位	千葉東(千葉)	99.4
	5位	長崎北陽台(長崎)	99.4
	6位	藤枝東(静岡)	99.3
女子団体	1位	長崎北陽台(長崎)	99.9
	2位	静岡(静岡)	99.6
	3位	山形西(山形)	99.6
	4位	ノートルダム清心(広島)	99.5
	5位	盛岡第一(岩手)	99.5
	6位	修猷館(福岡)	99.4

大会リザルト

第1回理事会

日時 令和7年6月23日
18時30分～19時30分
会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5階
出席者 理事18名中15名
監事2名中2名
理事 木ノ内高嘉、鈴木重幸、内海廣治、滝田博之、堀内修、工藤誠志(代理)、篠崎勇、大石幸男、出利葉義次、池谷延房、中川清、加藤敏美、小林玲子、岩田幸裕、諸戸明、前川朝夫、望月保男
挨拶 木ノ内高嘉会長
令和7年度事業計画、理事改選等が定時総会で承認され新体制での理事会となる。今後も登山活動において安全登山をお願いしたい。また、スポーツライミングの競技力向上に向けた取り組みが必要である。

1 各委員会の報告
(1)指導・遭難対策委員会
・全国指導委員長会議が7月12日に山岳レスキュー等で開催され、事業計画等の報告があった。
・日本スポーツ協会公認

山岳コーチⅠ養成講習会を開催する。検定員を増員する必要がある。
・日山協山岳保険の団体加入人数を増やしていきたい。この保険は条件が良く細かく対応してくれるなどのメリットがある。

(2)競技委員会
・第79回国民スポーツ大会スポーツライミング競技の静岡県予選が4月26日に開催された。リード競技は「ブルーキャニオン」、ボルダー競技は「サニロック富士」で実施した。参加人数は、ユース男子2名、ユース女子4名、少年男子7名、少年女子8名、成年男子2名、成年女子2名の計25名が出場した。

(3)国際委員会
・5月28日～6月22日に開催された海外登山「パキスタンのバルトロ氷河トレッキング(カラコム)」の参加者が帰国した。天気は快晴で、パキスタンの紛争の影響は受けなかった。

2 各委員会の事業計画
(1)指導・遭難対策委員会
・7月12日に山岳レスキュー講習会が開催される。現時点での申し込みが少な

いため、高校生のリーダーにも参加をお願いしたい。

(2)競技委員会
・国スポ第46回東海ブロックが7月19～20日に開催される。リードは「ブルーキャニオン」、ボルダーは「サニロック富士」で実施する。

3 スポーツフェスティバルについて
・令和7年度第19回しずおかスポーツフェスティバルを、富士山御殿庭周回コースを予定している。

4 その他
・東海ブロック正副会長・理事長会議が7月12日、静岡労働会館で開催される。

・令和8年岳連カレンダーは「世界の名峰」170部作製し、2千円で販売を予定している。

6月20～22日に開催された第72回東海高等学校総合体育大会登山大会で、富士が男女アベック優勝、沼津東(男子)準優勝、藤枝東(女子)3位入賞した。山域は三重県の御在所岳を含む鈴鹿山系であった。

(鈴木重幸)